

婦人科・産科のおもな疾患と診療について

婦人科の疾患と診療

1. 子宮がん検診

子宮がんは大きく分けて「子宮頸がん」「子宮体がん」分類されます。

子宮頸がんは子宮の入り口部分にできるがんです。

日本では20代30代の女性の中では、がん死亡原因として1位となっているのが子宮頸がん、若い女性の子宮頸がんは増加傾向にあります。もちろん40代以降でも子宮頸がんになる可能性があります。



子宮頸がん検診では子宮の入り口からブラシを使って細胞を採取し、がん細胞やがんになる前の段階の細胞があるかどうかを調べることができます。

病状としては、不正出血、特に（性交渉の後などの）接触出血を認めることが多いですが、初期のものでは無症状のものも多くありますので、早期発見には定期的な検診がとても大切です。

子宮頸がんの原因としてヒトパピローマウイルス（HPV）が関係していることがわかっています。軽度の細胞診異常の場合には、HPVの有無が治療方針に関わるため、HPVの検査を行うことが一般的です。

ただし、当院には産婦人科の常勤医がいないため、**HPVの検査は自費**となっております。ご了承いただいた上で代わりの方法を含めた治療方針のご相談をさせていただきます。

子宮体がんは閉経後の女性に多く発生する、子宮の中の内膜から発生するがんです。年々子宮体がんの患者は増加しており、閉経後はもちろん、子宮からの生理以外の出血である不正出血が代表的な症状ですが、無症状の場合もあります。

当科では、子宮頸がん検診、子宮体がん検診、エコー検査による婦人科がん検診を随時受け付けております。エコー検査では、子宮の形状や卵巣の状態を見ることができます。無症状の方でも卵巣腫瘍や子宮筋腫が見つかる場合があります。エコー検査による卵巣がんの早期発見はまだ課題が多いですが、初期の卵巣がんは症状から疑うのが難しいため、診断に一定の役割は果たしていると考えています。

子宮頸がんや子宮体がんは早期発見により根治が可能ながんです。進行がんと診断された場合は、基本的に子宮を摘出しなければいけませんが、早期発見により子宮を摘出

しなくても済む場合もあります。性交経験のある 20 代以上の方は、1 年に 1 度はがん検診を受けましょう。

なお、子宮がん検診は、年齢によってお住いの市町村より割引や助成金が出る場合がありますので、各市町村にお問い合わせください。

2. 子宮筋腫

子宮筋腫は子宮やその近くに発生する良性の腫瘍です。30 代以上の 20～30%以上にみられるとされ、婦人科疾患の中でもよくみられる腫瘍です。大きさや個数・場所などは一人ひとりで異なり、1～2cm の小さなものから 10cm 以上に発育する場合があります。無症状なこともあります。生理の量が増加する過多月経や不正性器出血・月経痛を引き起こしたり、不妊の原因となる場合があります。

子宮筋腫は症状がある場合や増大傾向にある場合では治療が必要となります。治療法にはホルモン剤を用いた薬物療法や手術療法が挙げられます。

当科では、年齢や妊娠の希望の有無などによって患者さん一人ひとりに合った治療法・術式を提案しております。**現在当科では手術を行っておりませんが**、札幌や旭川などの手術可能な施設と連携の上で治療を行っております。

3. 子宮内膜症

子宮内膜症とは、子宮内膜という子宮の内側の組織が、子宮以外で増殖する病気です。主な症状は生理痛で、慢性的な下腹痛、性交痛や排便痛を伴う場合があります。重症になると痛みによって日常生活に支障がでる場合や不妊の原因となることもしばしばあります。

子宮内膜症は、鎮痛剤や低用量ピルや GnRH アナログ、プロゲステン製剤などのホルモン剤を使用することによって症状の緩和や治療をすることができます。また、病変の部位にもよりますが、妊娠を希望しない方ではホルモン剤を含んだ子宮内器具を挿入することで、安定した治療効果が期待できる場合があります。重い生理痛に悩んでいる方は、一度受診をお勧めします。

4. 不妊症・不育症

不妊症とは、赤ちゃんを希望のカップルが通常の性生活を送りながら、2 年以上経過しても赤ちゃんが得られない場合をいいます。不育症とは、妊娠の成立はするものの自然流産や子宮内胎児死亡を反復する場合をいいます。

不妊症の原因は、女性に原因がある場合が約 40%、男性に原因がある場合が約 25%、両性に原因がある場合が約 25%、残り 10%が不明といわれています。女性不妊症の原因はホルモンや卵巣、卵管に異常を認める場合、免疫に問題がある場合など、様々な原因によるため、専門的な検査による診断及び個人にあった適切な治療が必要となります。

不妊症・不育症で産婦人科外来を受診することは大変勇気のいることですが、ひとりで悩まず、一度ご相談ください。

なお、当院では、タイミング療法、排卵誘発、人工授精までの対応は可能ですが、**体外受精には対応しておりません**。札幌や旭川などの施設と連携の上で、これらの治療の補助を行うことは可能ですので、その際は気兼ねなくご相談ください。

5. 更年期障害

更年期とは、閉経前後の期間を指します。この時期には卵巣から分泌される女性ホルモンの低下・欠落によって、身体的・精神的に様々な症状が現れます。それらが生活に支障をきたすようになった場合、更年期障害と呼ばれます。症状は人によって様々ですが、主なものとしては顔のほてり（Hot Flash といいます）、のぼせ、異常な発汗、動悸、めまいといった身体症状や、抑うつ状態、不眠、頭が重いといった精神神経的な症状が挙げられます。



また、閉経後は骨粗しょう症や高脂血症などが見つかる場合もあります。骨粗しょう症の有無は X 線を用いた簡単な方法で調べることができますので、ご希望の方はご相談ください。

更年期障害の治療としては、女性ホルモンの内服薬や貼付剤、塗布剤を用いたホルモン補充療法（HRT）や漢方薬などによる治療を行います。特にほてりやのぼせといった身体症状に対しては HRT が有効なことが多いです。

血栓症や肝機能障害などがある方は、ホルモン補充療法が不可能な場合がありますが、適切な治療法により更年期症状の改善が期待できます。

6. 避妊・月経移動のご相談

現在日本では、コンドームによる避妊法が最も普及していますが、男女の役割・社会的地位の変化から女性の意思による避妊を希望する方も増えています。当科では、以下の方法を提供しております。（いずれも自費診療となります。）

< 子宮内避妊具（IUD） >

子宮内にプラスチックでできた小さな器具を子宮内に挿入し、妊娠を防ぎます。優れた避妊効果と安全性を兼ね備えています。

ただし、お産の経験がない方では、子宮の入り口が固く、挿入が難しいことがあります。

< 低用量ピル >

女性ホルモンをコントロールし、排卵・着床を抑制することで避妊効果を発揮します。1日1錠の内服で、飲み忘れさえなければ、ほぼ100%の避妊率であり、欧米では最もポピュラーな避妊方法です。

ただし、喫煙中の方、40歳以上の方、肥満の方や乳がん・子宮がんの方などは、内服に伴うリスクがあるため、担当医とご相談ください。

< 緊急避妊法 >

避妊に失敗した場合、妊娠を望まないのに無防備な性交をした場合に用いる避妊法です。ホルモン剤を性交後72時間以内に内服することで、97~98%の妊娠を防ぐことができます。内服方法や費用など、薬剤の詳細については担当医とご相談ください。

< 月経移動 >

旅行やスポーツなどの予定で月経時期をずらしたいという希望がある方はご相談ください。

予定する月経の3~5日前からホルモン剤を内服し、月経を遅らせる方法（こちらの方が確実です）や、あらかじめホルモン剤を内服し、月経を早める方法があります。

産科の検査・診療

当院は留萌管内唯一の分娩施設として、地域の皆さんが満足できる安全で幸せなお産を目指すとともに、一人ひとりのお産を大切に、心のこもった周産期医療を提供するよう心がけております。



安全な出産のために、妊娠経過中の異常の早期発見・治療を目的として、超音波検査をはじめとした対応を行っています。また、総合病院である利点を活かし、合併症をお持ちの妊婦さんに対しても可能な限り他科と協力して診療を行っております。分娩後の新生児については小児科医師に依頼し、より安全な新生児管理を目指しております。

ただし、集中的な管理が必要な合併症をお持ちの妊婦さんなどに対しては、十分な対応ができないこともありますので、**もともと持病をお持ちの方などで、妊娠が可能かどうかをあらかじめ主治医の先生とご相談いただく**のがよいでしょう。

また、週数が早かったり（目安としては36週末満）、赤ちゃんに発育もしくは先天異常が指摘されている場合などは、出生後に高度な治療が必要となる可能性が高まるため、当院での分娩はできません。**札幌や旭川などの高次施設への紹介・搬送が必要となる**ことがありますので、ご了承いただけますと幸いです。

当科では、可能な限りすべての分娩に産婦人科医の立ち会いを原則とし、パートナーの方の立ち会い出産も受け付けております。（新型コロナウイルス感染症などの状況によっては、お断りすることもあります）

ご不明な点については、産科外来スタッフにご相談ください。

1. 妊婦健診のエコー検査について

エコー検査の際には、ご家族の方も一緒にエコー画像を見ることができます。（新型コロナウイルス感染症などの状況によっては、お断りすることもあります）

リスクのない妊婦さんでは、妊婦健診時のエコー画像を撮影することができますので、担当医にご相談ください。

4D エコーなども行っておりますが、赤ちゃんの姿勢などによってはきれいな画像を出すことが難しい場合があります。また、外来混雑時は撮影をお断りする場合がございます。あくまでサービスの一環であることをご理解ください。

2. 小さなお子様連れのお母さんには

小さなお子様と一緒にいらしたときには外来スタッフにお声がけください。お母さんの診察中は、病院ボランティアなどがお子様の対応をいたしますのでご相談ください。

3. 妊娠中のトラブルや疑問には

妊娠中や産褥・授乳中のちょっとしたトラブル・聞いてみたいことがございましたら遠慮なく医師、助産師にご相談ください。可能な範囲で丁寧にお答えいたします。